

# レファレンス コーナー 韓国の大統領選挙

## 二階宏之

二〇〇七年は韓国の第十七代大統領選挙の年である。今回の選挙は、一九八七年に大統領直接選挙が復活してから二〇年の節目にあたる。前回の選挙はサイバー選挙といわれ、インターネット上で絶大な支持を受けた盧武鉉が大統領に選出された。今回も UCC (User Created Content) といわれる、動画中心のコンテンツを活用したサイトの動きが注目される。これに対して中央選挙管理委員会は、UCCの加熱の抑制と公正な選挙の実施のため、UCCの運用基準を設けた。また、検索専門要員三〇〇人を動員してUCCとポータルサイトに対するモニターを強化している。

予備候補者の登録が四月二三日から開始されており、二月二五、二六日(選挙日の二四日前から二日間)が候補者の登録日で、二月一九日(任期満了前七〇日以降の最初の水曜日)が選挙日となる。選挙権者は一九歳以上の国民で、被選挙権者は五年以上国内に居住している四〇歳以上の国民である。前回の選挙との違いは、選挙権者の年齢が二〇歳から一九歳に引き下げられたこと

と、政党内の候補選から落ちた者は、離党しても選挙に出馬できないことなどである。

歴代の大統領選挙を概観してみると、現在まで一〇回の直接選挙(うち一回は無効選挙)と七回の間接選挙の実施された。前回の第十六代選挙の投票率は七〇・八%で、過去の大統領直接選挙の中で最低であった。また、直接選挙が復活した第三代大統領選挙からは、当選者の得票率が五〇%を超えることはない(表一)。次にアジア経済研究所図書館所蔵の韓国大統領選挙に関する日本語資料を紹介する。内容は、選挙概要や選挙結果の分析及び投票行動に関するものが多い。

### ・第三代大統領選挙

武貞秀士「韓国大統領選挙結果の分析」(『コリア評論』三〇九号、一九八八年三月)。

### ・第四代大統領選挙

田中明「一九九二年韓国大統領選挙に関する覚書」(『海外事情』四一巻二号、一九九三年二月)。前田康博「韓国大統領選挙の結果を読む」(『統一評論』三三三号、一九九三年一月)。鄭求宗「社会構造と投票行動―韓国の第四回大統領選挙分析を中心として」(『法學政治學論究』二二号、一九九四年九月)。

### ・第五代大統領選挙

自治体国際化協会ソウル事務所『大韓民国の第五代大統領選挙について』(一九九八年)。慶渚姫「韓国第五代大統領選挙における戦略

的投票」(『法學政治學論究』五五号、二〇〇二年二月)。出水薫「韓国国政選挙における地域割拠現象再論―第五代大統領選挙を対象として」(『政治研究』四五号、一九九八年三月)。田中明「見慣れた風景の連続―韓国の第五代大統領選挙を顧みて」(『海外事情』四六巻二号、一九九八年二月)。康元沢「有権者のイデオロギー的傾向と投票形態―一九九七年の大統領選挙を中心として」(『コリア・フォーカス』六巻二号、一九九八年三・四月)。

### ・第六代大統領選挙

自治体国際化協会ソウル事務所『大韓民国の第六代大統領選挙』(二〇〇三年)。小此木政夫編「韓国における市民意識の動態」(慶應義塾大学出版会、二〇〇五年)。山本健太郎「韓国における政党の大統領候補者選出過程―二〇〇一年の新年民主党の『国民参加』党内選挙を中心に」(『レファレンス』六三〇号、二〇〇三年七月)。慶渚姫「二〇〇二年韓国第六代大統領選挙の分析―『争点態度投票』を中心に」(『法學政治學論究』五九号、二〇〇三年二月)。小林英夫「韓国の大統領選挙と政治変容」『アジア太平洋研究』五号、二〇〇三年三月)。

### ・歴代大統領選挙の概観

慎斗範著「韓国政治の現在―民主化へのダイナミクス」(有斐閣、一九九三年)。孔星鎮・川勝平太編「韓国の政治―南北統一をめざす新・先進国」(早稲田大学出版部、一九九

七年)。森山茂徳著「韓国現代政治」(東京大学出版会、一九九八年)。趙徳圭「韓国の歴代大統領選挙を振り返る」(『統一評論』二七〇号、一九八七年二月)。

最後に、韓国の大統領選挙の概要を知るには、韓国中央選挙管理委員会のホームページが詳しい。歴代選挙情報システム、というメニューから、有権者数、候補者、投票、開票、当選者、実施状況の歴代のデータが一覧できる(言語はハングル <http://www.nec.go.kr/>)。

(にかい ひろゆき／アジア経済研究所図書館)

表1 歴代大統領選挙の結果概要

歴代	選挙日	選出方法	有効投票数	当選者	得票数(得票率)	次点者	得票数(得票率)	投票率
第1代	1948年7月20日	間接	※注1	李承晩	※注1	※注1	※注1	※注1
第2代	1952年8月5日	直接	7,020,684	李承晩	5,238,769(74.6%)	曹奉岩	797,504(11.4%)	88.1%
第3代	1956年5月15日	直接	7,210,245	李承晩	5,046,437(70.0%)	曹奉岩	2,163,808(30.0%)	94.4%
第4代	1960年3月15日	直接	9,633,376	李承晩	9,633,376(100%)	※注2	※注2	97.0%
第4代	1960年8月12日	間接	※注1	尹潽善	※注1	※注1	※注1	※注1
第5代	1963年10月15日	直接	10,081,198	朴正熙	4,702,640(46.6%)	尹潽善	4,546,614(45.1%)	85.0%
第6代	1967年5月3日	直接	11,058,721	朴正熙	5,688,666(51.4%)	尹潽善	4,526,541(40.9%)	83.6%
第7代	1971年4月27日	直接	11,923,218	朴正熙	6,342,828(53.2%)	金大中	5,395,900(45.3%)	79.8%
第8代	1972年12月23日	間接	※注1	朴正熙	※注1	※注1	※注1	※注1
第9代	1978年7月6日	間接	※注1	朴正熙	※注1	※注1	※注1	※注1
第10代	1979年12月6日	間接	※注1	崔圭夏	※注1	※注1	※注1	※注1
第11代	1980年8月27日	間接	※注1	全斗煥	※注1	※注1	※注1	※注1
第12代	1981年2月25日	間接	※注1	全斗煥	※注1	※注1	※注1	※注1
第13代	1987年12月16日	直接	22,603,411	盧泰愚	8,282,738(36.6%)	金泳三	6,337,581(28.0%)	89.2%
第14代	1992年12月18日	直接	23,775,409	金泳三	9,977,332(42.0%)	金大中	8,041,284(33.8%)	81.9%
第15代	1997年12月18日	直接	25,642,438	金大中	10,326,275(40.3%)	李會昌	9,935,718(38.7%)	80.7%
第16代	2002年12月19日	直接	24,561,916	盧武鉉	12,014,277(48.9%)	李會昌	11,443,297(46.6%)	70.8%

(出所) 韓国中央選挙管理委員会ホームページより筆者作成 (<http://www.nec.go.kr/>)。

(注) 1. 有効投票数、得票数、得票率、次点者、投票率は直接選挙のみ記入。  
2. 第4代直接選挙は無効選挙、立候補者は対立候補死亡により李承晩1人。